

熊本市 感染症発生動向調査 速報



今週のピックアップ感染症

●無菌性髄膜炎

発熱・頭痛・嘔吐のいわゆる髄膜炎の3主徴に加え、髄膜炎の検査所見があり、髄液から細菌が検出されないものを無菌性髄膜炎と呼びます。多くの場合はウイルス性髄膜炎を指し、エコーウイルスやコクサッキーウイルス、エンテロウイルス71等のエンテロウイルス属によるものが7～8割を占めます。ムンプスウイルスやマイコプラズマも原因となることがあります。

◆どんな病気？

- ・症状……原因となる病原体によって異なりますが、通常、発熱と頭痛、悪心、嘔吐で発症します。進行すると意識障害、痙攣などを起こします。首やひざのこわばりなどの特徴的な身体所見(髄膜刺激症状)がほとんどの症例で見られます。乳幼児の場合は、発熱と不機嫌、易刺激性、嗜眠がよくみられます。
- ・潜伏期間……おおむね4～6日程度(病原体により異なる)
- ・感染経路……病原体により異なり、様々な感染経路がありますが、エンテロウイルスの場合は感染者の鼻水、便の中に含まれるウイルスが、手などを介して口や鼻の中に運ばれることによる感染(糞口感染)や、くしゃみや咳のしぶきを吸い込む飛沫感染があります。
- ・流行期……病原体により異なりますが、全体としてはエンテロウイルスの流行パターンを反映するため、初夏から増加し始め、夏から秋にかけて流行がみられます。

◆かかったらどうすればいいの？

- ・通常は入院による治療が必要になります。病原体に合わせた治療や対症療法が中心となります。

◆予防法は？

- ・ムンプスウイルスによるものについては、ワクチンによる予防が期待できます。
- ・手洗い、うがいなどの一般的な予防方法をしっかり行い、患者との濃厚な接触を避けましょう。



期 間		平成28年 第35週		平成28年 第36週	
		8/29～9/4		9/5～9/11	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症		27	1.69	21	1.31
咽頭結膜熱(プール熱)		4	0.25	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11	0.69	13	0.81
感染性胃腸炎		70	4.38	91	5.69
水痘(みずぼうそう)		7	0.44	5	0.31
手足口病		6	0.38	4	0.25
伝染性紅斑(りんご病)		1	0.06	1	0.06
突発性発しん		11	0.69	14	0.88
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		3	0.19	5	0.31
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		22	1.38	18	1.13
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		12	2.40	9	1.80
細菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
無菌性髄膜炎		3	0.60	6	1.20
マイコプラズマ肺炎		5	1.00	7	1.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	1	0.20